

発行 宮城県こもれびの森 森林科学館  
〒987-2512 宮城県栗原市花山草木沢角間 10-7

TEL&FAX 0228-56-2330  
http://mifi.main.jp/komorebi.htm



## イベント報告 -ウッドランドクラブ6月-

### ～カブト虫の飼育方講座!!～

6月のウッドランドクラブは、カブト虫の幼虫を見つけて、育て方やカブト虫の一生を知ることがテーマでした。5日(日)は好天にめぐまれ、子供たちや大人まで楽しむことができました。

初夏のこの時期に、カブト虫の幼虫は成虫になる準備を始めます。幼虫を掘り起こす体験を通じて、カブト虫の特徴や命の大切さを実感したと思います。

幼虫は、家に持ち帰り飼育して



＜カブト虫のお勉強です。＞

成虫になるまで観察します。  
お昼は竹の先に練った小麦粉を巻いて、棒パン作りを体験しました。



＜パンを焼きます～＞

子供たちは自分で調理して焼いたパンをおいしそうに食べていましたが、お父さん、お母さんの方がより熱心に棒パン作りをしていたように見えたが、気のせいでしょうか。



＜いた!いた!＞

## こもれびの森の かわいいことりたち

こもれびの森サポーターで専属ことりカメラマン(?)の大友さんのコーナーです

### “初夏のことりたち”

“ヤマドリ”の親子”が道を横切りました。親は逃げました。「ヒナ」は側溝にはまりパニック状態です。親の呼び方に渡りました。

“清流の宝石カワセミ”が湿生植物園に魚を取りに来ます。バックの緑と黄色に映えてとてもきれいです。

“サンコウチョウ” アイリングの青がとてもすてきです。何度も巣に来てエサを与えています。(大友)



①ヤマドリ  
のヒナ



②カワセミ  
オス



③巣の上の  
サンコウ  
チョウ

## 生き物いろいろ



～身近にいる小さな虫たち～

### “厄介者”

最近、二度も山ヒルに遭遇した。6月25日の雨上がりの秋保の三方倉山の遊歩道を歩いた後、家で靴を脱ぐと左足のすねと足首の2ヶ所が直径6～7cm大に血が滲んでいた。血が止まらないのは血液が凝固しないヒルジンという麻酔成分を注入するからと言われている。7月9日の牡鹿半島で小雨の中で樹木を眺めていたら何かがポタッと落ちてきた。数分後、何気なく腰に手をやったらヒルが手にくっついてきた。

山ヒルは枝葉にぶら下がったり、落葉から体を伸ばして動物が来るのを待っている。そして、熱や振動、二酸化炭素などを感知して体について衣服の隙間から潜り込んで吸血する。活動時期は、主に梅雨や秋雨であるが生息域は限られている。こもれびの森はいかに?私は何十回も訪れているが未だ見たことがない。いないことを信じている。(は)



＜山ヒル①＞



＜山ヒル②＞

## まめちしぎコーナー “花や木などのチョットした知識”

### ～マメ科植物の強み・・・「ネムノキ」(マメ科)～

初夏の夕暮れ時、風に揺れる怪しげなネムノキの花。花は夕方に開花し、長く突き出た「雄しべ」がゆらゆらと目立ちます。そして、羽状複葉の葉は夜に向かって、眠るようにピッタリと閉じていきます。

さて、この木の根には小さな白いコブがたくさんあります。根粒(こんりゅう)といい、そこには根粒菌が生きています。この菌は植物から栄養をもらい、代わりに窒素を植物が吸収しやすい形に変える働きをします(窒素固定)。マメ科の多くの植物には、このような根粒菌との共生の仕組みがあります。

植物の三大栄養素は、窒素・リン・カリウムで、この中で窒素は大気中に豊富にあるのですが、植物にとって吸収しにくいものです。つまり、ネムノキは不足気味な肥料を自分で作り出してしまうという木です。他のマメ科植物と同様に、不毛な土壌やどんな荒地にでも、真っ先に進出できる理由はここにあります。

ネムノキは先駆植物(パイオニア)のひとつであり、マメ科植物の特性をフルに生かした木といえそうです。(千葉)



＜ネムノキの花＞

## 科学館情報

### クマにご注意!!

今年は例年になくクマの出没が相次いでいます。科学館のある花山地区も例外ではなく、クマが出る可能性は高いといえます。当館では、来館者の皆様の安全確保からクマに注意するよう看板を出しています。また、奥まった場所に入る時には、クマよけの音を出してから入るように工夫もしています。来館した折には注意の程お願いいたします。



＜クマ注意の案内＞



＜叩くとコンコン音  
が出ます＞